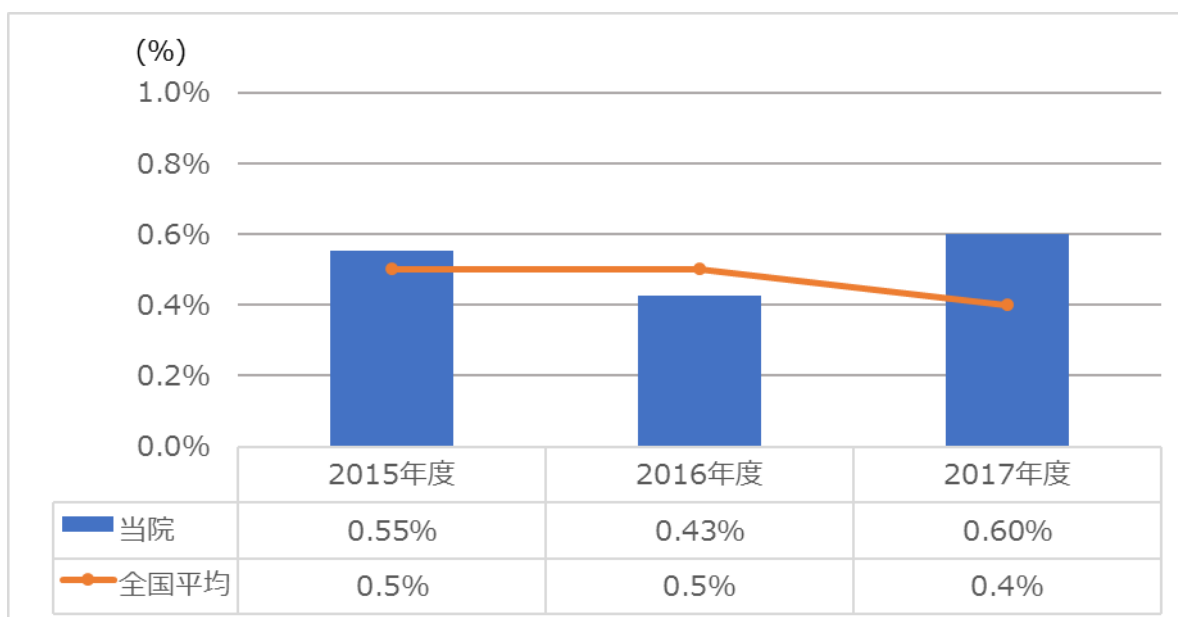


指標 20 術後敗血症発症率（緊急手術を除く）



<定義>

分子	分母のうち、術後敗血症のある症例（入院後発症した傷病名に敗血症の見られる症例）
分母	18歳以上の手術（緊急手術を除く）を行い退院した症例（周産期、産褥期、出産は除外）
期間	2015年度～2017年度（1年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	低い方が望ましい

<解説>

敗血症は、細菌などが血液中に侵入して起こる全身感染症のことです。通常は細菌が血液中に入っても免疫システムが働いて敗血症にはなりません。体の抵抗力が落ちる手術後には発症のリスクが高まります。侵襲度の高い高度な手術後でも敗血症を引き起こさない管理が重要です。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）